厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

「がん検診 わかりやすい版」の作成（試作版から校了まで）プロセスに関する研究

研究代表者　八巻 知香子　国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部　部長
研究分担者　打浪 文子　立正大学 社会福祉学部　准教授
研究分担者　中山 富雄　国立がん研究センター がん対策研究所 検診研究部　部長
研究協力者　羽山 慎亮　国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部　特任研究員
研究協力者　志賀 久美子　国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部　看護師

研究要旨
本研究では、特に知的障害者らにがん検診の情報が理解できる形で行き渡っていない恐れがあることをふまえ、知的障害者自身ががん検診について理解でき、意思決定の材料となる「がん検診 わかりやすい版」を制作した。昨年度、本研究班でのこれまでのわかりやすい版作成の手順を参考にして試作したA4判・全12ページの冊子について、最終的な内容の調整および校正をおこなった。また、配布方法について検討した上で、希望者の手に渡るよう紙媒体として印刷をおこなった。

A. 研究目的

障害者差別解消法によって、医療機関においても障害者への合理的配慮（障害者から困りごとが訴えられた場合に、過重な負担にならない範囲で、必要な対応を行うこと）が義務付けられている。しかし、本研究班での調査によって、現状では十分な対応がなされていないことが見受けられている。こうした背景をふまえ、先行研究班および本研究班では、知的障害者らを対象にした「大腸がん わかりやすい版」（令和2年度）、「肺がん わかりやすい版」（令和3年度）、「糖尿病 わかりやすい版」（令和4年度）、「子宮頸がん わかりやすい版」（令和5年度）を作成した。これらが普及することによって知的障害者をはじめ医療情報の理解に困難がある人たちへの情報保障となることをめざしている。

令和6年度には、本研究班のがん検診に関する研究をふまえ、「がん検診 わかりやすい版」を試作した。

令和7年度には「がん検診 わかりやすい版」を完成させて印刷し、それにより、知的障害者らにがん検診の情報が理解できる形で行き渡り、安全に検診を受けられる環境が整えられることをめざす。

B. 研究方法

「がん検診 わかりやすい版」試作版について、研究協力者らとともに検討をおこない、想定される配布・活用方法に沿ったものになっているかを確認した。

また、印刷するにあたり、最終の校正をおこなった。

（倫理面への配慮）

本研究は、過去に倫理審査委員会に諮りながら実施した研究結果を基として、資材を作成したものであり、新たに人を対象とする研究をおこなったものではない。

C. 研究結果

「がん検診 わかりやすい版」試作版の検討をおこなった結果、想定される配布・活用方法に沿ったものになっていることを確認した。

ただし、11ページの「検診だけ 受ければよい？」

のページは余白が空いており、また、検診の時期以外でも受診が勧められる症状について詳細を記していなかったため、以下の記述に差し替えた。

◯11ページ
気になる症状が あるときには、
がまんしないで 家族や支援者に相談したり、
検診の時期でなくても 病院で みてもらうと いいです。
たとえば 以下のような症状は、
がんが原因で 起こることが あります。
（がんが原因でない場合も あります。）
・せきが長く続く、たんに血が混じる、胸が痛い
・声がかれる、息切れする
・胃が痛い、胃が気持ち悪いことが 長く続く
・食欲がない、食べものがつまる感じがする
・おなかが痛いことが 長く続く
・うんちに血が混じる、うんちの状態や回数が今までと違う
・おっぱいの中に 固い かたまりのようなものがある、
おっぱいの一部が へこんでいる
・乳首から 血のような液が出る
・乳首が 赤くて かゆい・皮がめくれて 汁が出ている
・（女性が）生理のときでないのに・生理は終わったのに 女性器から血が出る
・（女性が）生理の時期が ばらついている

上記を修正した後に最終の校正をおこない、4ページの表のレイアウト調整、ルビ抜けの修正、フォント誤りの修正などをおこなった。

以上により完成した「がん検診 わかりやすい版」を印刷した。令和7年度中に配布を開始する予定である。

D. 考察

これまでの「わかりやすい版」の作成では、「医学的な正確さ」と「表現のわかりやすさ」「情報量」とのかねあいで調整が必要になることが多かった。

令和6年度の本研究報告書に記したとおり、検査法や制度に関する説明が中心だったため、非医療従事者が作成した草案どおりに進めることで概ね問題がなかった。本年度の検討においても、最終的に大きな修正が入ることはなかった。このことから、「がん検診 わかりやすい版」をもとに、役所や福祉施設の職員らが障害のある対象者に説明することもしやすいと考えられる。

ただし、これも令和6年度の本研究報告書に記したように、「がん検診 わかりやすい版」は具体的ながん検診の詳細が網羅されているわけではない。そのため、実際の検査の際の情報保障として、検査の方法をわかりやすく説明した資料も必要になってくる。医療機関が独自にわかりやすい資料を作成できるよう、引き続き検討・提案をしていきたい。

E. 結論

本研究では、特に知的障害者らにがん検診の情報が理解できる形で行き渡っていない恐れがあることをふまえ、知的障害者自身ががん検診について理解でき、意思決定の材料となる「がん検診 わかりやすい版」を制作した。令和6年度に試作した冊子について、最終的な内容の調整および校正をおこない、A4判・全12ページの冊子として完成・印刷した。

この冊子により、知的障害者らにがん検診の情報が理解できる形で行き渡り、安全に検診を受けられる環境が整えられることが期待される。一方で、具体的な検査の詳細については、医療機関での情報保障が求められる。医療機関が独自にわかりやすい資料を作成できるように検討・提案をすることが今後の課題である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

１．論文発表

羽山慎亮, 「がん検診　わかりやすい版」を公開～検診を受けるべき人が受けられるように～. 元気の出る情報・交流誌　手をつなぐ. 838.38-39.

(2025.12).全国手をつなぐ育成会連合会.

なし

２．学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし